

社長メッセージ

2018年度 第2四半期決算と 「丸紅グループの 在り姿」について

株主の皆様には、変わらぬご高配を賜り、
厚く御礼申し上げます。

2018年度第2四半期決算の概要と2018
年度業績見通し、6月に公表いたしました
『丸紅グループの在り姿』についてご説明
いたします。

代表取締役社長
國分 文也

2018年度第2四半期決算の概要と2018年度業績見通し

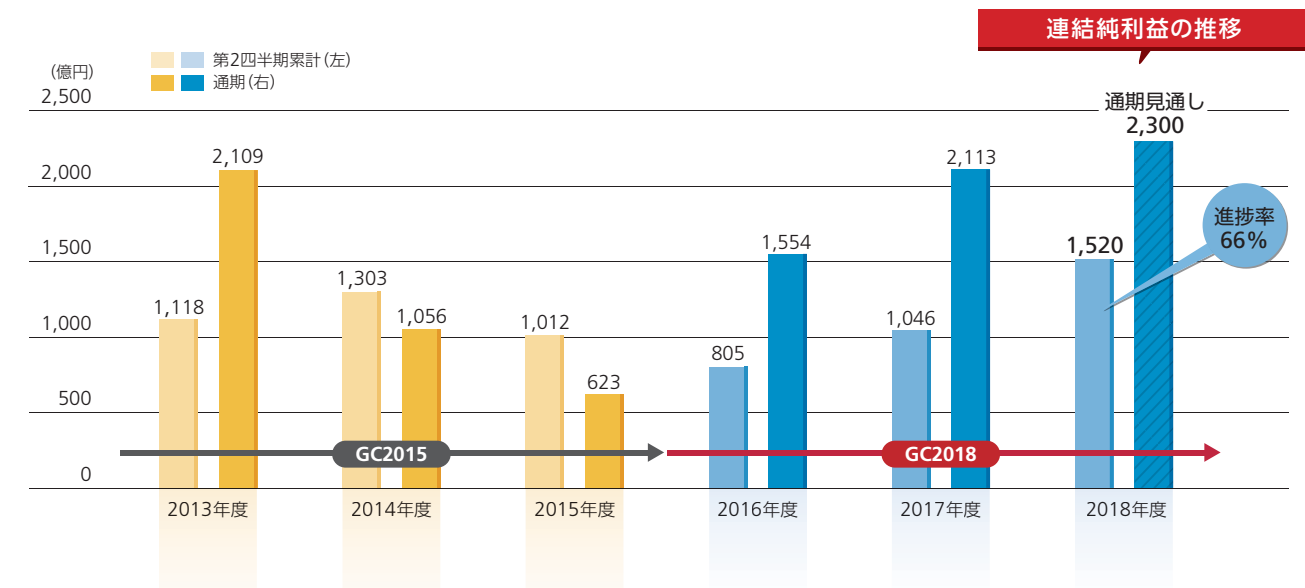
第2四半期累計期間として過去最高益

第2四半期累計期間の経済環境を概観しますと、米国をはじめとする先進国では概ね安定した拡大が続き、中国などの新興国でも拡大の動きが続きました。この結果、世界経済は総じてみれば安定した成長となりました。一方で、米国の政策をうけて通商摩擦や中東情勢の変化が生じ、世界経済全体に不透明感がみられました。この間、原油をはじめとする商品市況は供給側の要因や米中を中心とした通商摩擦の影響をうけて商品ごとに異なる値動きとなりました。

このような環境のもと、第2四半期累計期間の連

結純利益は1,520億円となり、前年同期比で474億円(45%)の大幅増益、第2四半期累計期間として過去最高益となりました。前述した世界経済の安定成長を背景に、非資源分野では紙パルプ、電力、アグリインプット事業などが牽引し371億円の増益、資源分野ではエネルギーを中心に103億円の増益となりました。

2018年度の連結純利益の見通しは、期初に掲げた2,300億円を据え置きました。2期連続の最高益達成に向けて第2四半期累計期間までの進捗率は66%と順調に推移しております。



財務基盤は着実に改善

中期経営計画『Global Challenge 2018 (GC2018)』においては、「財務基盤の更なる強化」を最優先課題として掲げています。2018年9月末のネット有利子負債は為替の影響、支払配当およびフリーキャッシュフローの支出等により前年度末比1,596億円増加し、2兆754億円となりました。これに対し2018年9月末の資本合計は、利益の積み上げを

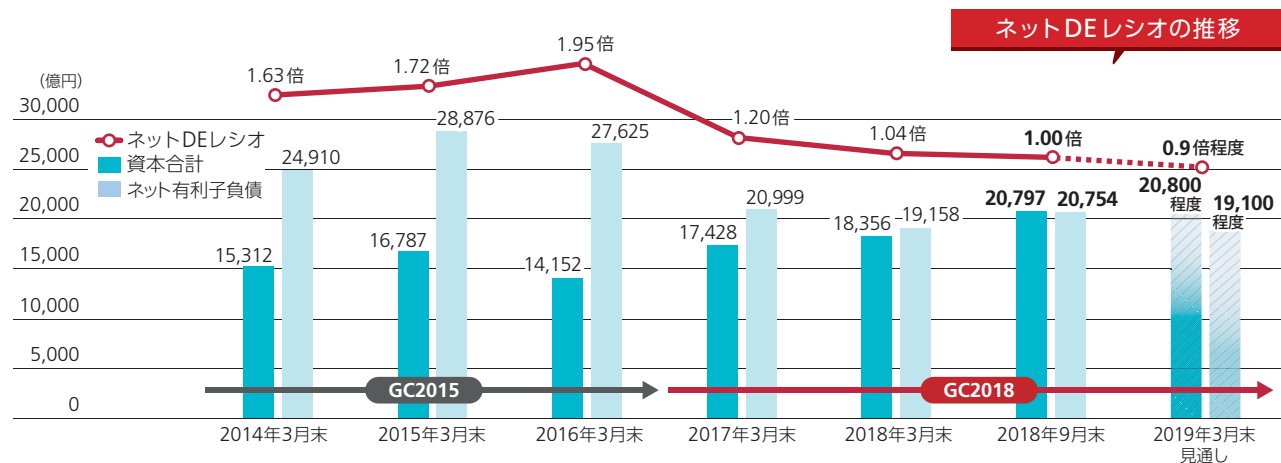
主因として前年度末比2,441億円増加して2兆797億円となり、財務基盤強化への取り組みを開始して以来、初めて資本合計がネット有利子負債の金額を上回りました。その結果、資本合計とネット有利子負債の比率である、ネットDEレシオは前年度末比0.04ポイント改善し、1.00倍となり、財務基盤の強化は着実に進捗しています。

ネットDEレシオ0.8倍の早期達成を目指して

GC2018においては、前述のネットDEレシオを遅くとも2020年度末までに0.8倍程度まで改善させることを目標にしています。

11月2日に公表した業績見通しにおいて、2018年度末のネットDEレシオは0.9倍程度まで改善す

る見通しとなっており、これはGC2018策定時の想定より早いペースでの改善です。今後も目標の早期達成に向けて財務基盤の更なる強化を継続していきます。



株主還元について

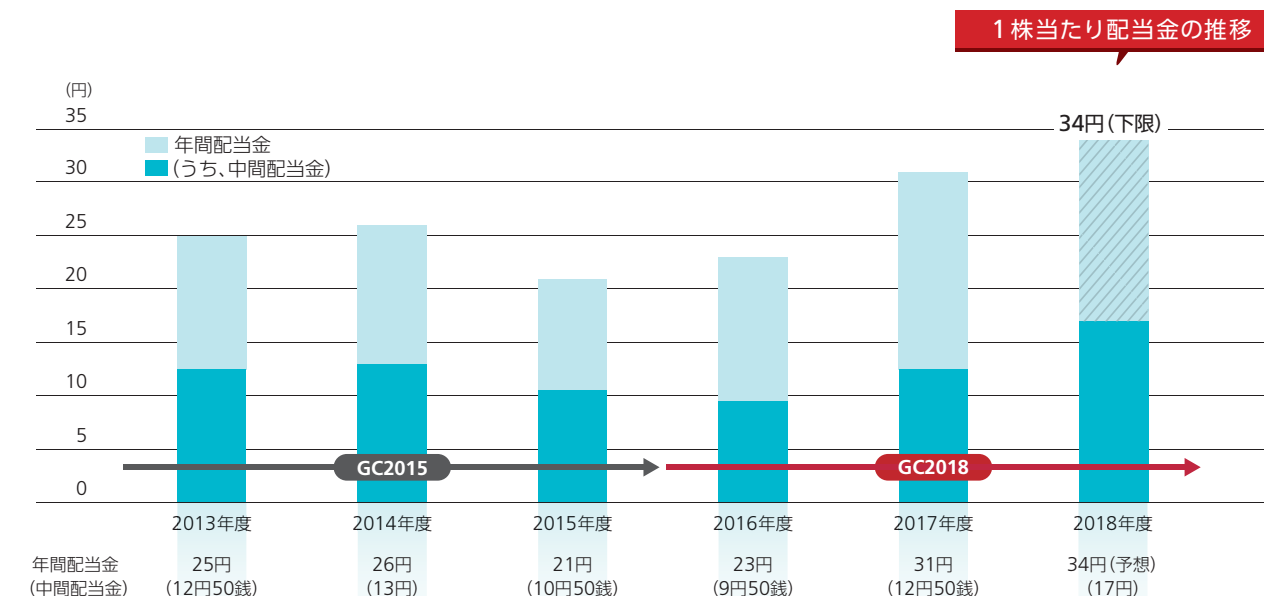
中間配当金は1株当たり17円

配当につきましては、株主の皆様への利益還元をより明確にするため、各期の業績に連動させる考え方を取り入れており、具体的な配当金額は、連結配当性向25%以上で決定することを基本方針としています。

2018年度の年間配当金額は、連結純利益予想を2,300億円としていることから、上記の基本方針に基づき、2期連続で過去最高となる1株当たり34円を予想しています。なお、2018年度の年間配当金

額は、この34円を下限としております。中間配当金については期初の配当予想通り1株当たり17円とし、12月3日より支払いを開始いたします。

配当後の剰余金(内部留保)については、前述した「財務基盤の更なる強化」の方針に基づいて、強固な財務体質の構築に活用するとともに、GC2018におけるもう一つの柱である「事業戦略の進化」に基づき、成長分野への戦略的な投資にも継続的に配分し、企業価値を高めてまいります。



◆『Global crossvalue platform (グローバル・クロスバリュー・プラットフォーム)』

世界経済や国際政治、産業界で進むデジタル技術革新の動きなど、これからの10年はこれまでの10年をはるかに上回る大きな変化になると考えています。このような変革の時だからこそ、あらためて丸紅グループの存在意義を明確化し、グループ丸となって永続的に企業価値を高めていくための目指すべき在り姿として『Global crossvalue platform (グローバル・クロスバリュー・プラットフォーム)』を定めました。

丸紅グループを個々の事業の寄せ集めではなく、一つの巨大なプラットフォームとして捉え、そのプラットフォーム上で、グループの強み、社内外の知、ひとり一人の夢と夢、志と志を縦横無尽にクロスさせ、新たな価値を創造する。そして、社会・顧客に向けてソリューションを創出していく。これが、丸紅の在り姿です。

変化の激しい時代において、社会・顧客の課題に

対してソリューションを提供するには、それらの課題を先取りし、丸紅グループのプラットフォーム上でさまざまなものを掛け合わせ、新たなビジネスモデルを創り出す必要があります。それを可能にする丸紅ならではの競争優位性は二つあります。まず、海外に多く保有している優良なアセット群。もう一つは企業グループや系列にとらわれず、国内外のほとんどの優良企業へ自在にアクセスできるネットワーク力です。この二つのアドバンテージに、有形・無形の資産や知見やノウハウ、そして何よりもこれまで築き上げた信頼と実績が組み合わされたものが、丸紅グループという巨大なプラットフォームです。このプラットフォームに人工知能やIoTなどのデジタル触媒を添加し、化学反応を起こすことで、激変する事業環境の中でも持続可能な成長の実現を目指します。

◆丸紅をプラットフォーム化する

中期経営計画GC2018においては、2020年に向けた丸紅グループの在り姿として「それぞれの分野・市場において、世界のトッププレーヤーとの競争に勝ち抜き、地域経済や社会に貢献する真のグローバル企業」を掲げています。これを商品軸に

沿ったタテの進化とすれば、その商品軸を超えたヨコの拡張を加えたものが『Global crossvalue platform』です。

商品軸を超えたヨコの拡張では、プラットフォーム上で異なる事業を掛け合わせることで化学反

応を起こし、新たなビジネスモデルを創出していくことを目指します。その化学反応の触媒となる組織として、本年4月よりCDIO (チーフ・デジタル・イノベーション・オフィサー) とデジタル・イノベーション部を設置し、デジタル化の促進、事業と事業の掛け合わせによるイノベーションの創出などに取り組んでいます。また、自由で新しい発想に基づくイノベーション創出を後押しするために、「人材」「仕掛け」「時間」に関わる新たな施策を導入したことは前号でもご紹介しましたが、今号の特集では、具体的な取り組み状況を取り上げていますので、ご一読いただければと思います。



詳細記事：特集ページ P10～13

Global crossvalue platform

- ✓時代が求める社会課題を先取りし、事業間、社内外、国境、あらゆる壁を突き破るタテの進化とヨコの拡張により、社会・顧客に向けてソリューションを創出します。
- ✓丸紅グループを一つのプラットフォームとして捉え、グループの強み、社内外の知、ひとり一人の夢と夢、志と志、さまざまなものを縦横無尽にクロスさせて新たな価値を創造します。

『Global Challenge 2018』の総仕上げ

以上、丸紅グループの在り姿についてご説明しましたが、今年度が最終年度となる中期経営計画GC2018の総仕上げについてももしっかり対応していきます。足元の業績は好調に推移していますが、引き続き下半期についても計画の達成に向けた取り組みを推進してまいります。

最後になりましたが、株主の皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。



代表取締役社長

國分文也